

第 13 回「中帰連に学ぶ会」開催

『今日の中国～定年後の10年間に見聞きした・・・事』

講師：細川清和さん

記念館の会員にも登録下さっている建築家の細川清和さんを講師にお迎えし、11月1日に「学ぶ会」を開催しました。細川さんは大林組で電通本社ビルなどの設計を担当し、退職後は日中を往き来し中国での建築設計や若手建築家の指導や育成などに尽力されています。

当日は『今日の中国～定年後の10年間に見聞きした・・・事』と題して700枚以上の写真をパワーポイントに編集した講演をお願いしました。中国のビル建設の現状や中国の大学での文化交流な幅広いお話をして下さいました。旧満州国時代に日本が建設した建物は非常に質が良く今も政府機関や病院などに利用されている現状写真や、北京オリンピック見学の話なども紹介されました。

中国の現状を理解するためには、先ず中国の歴史を理解する必要があると、秦時代から欧米列強による植民地の時代まで、さらにアヘン戦争、日清、日露戦争、日中戦争、朝鮮戦争、毛沢東の大躍進や文革から鄧小平による改革開放まで可成り詳しく解説下さいました。

中国現状については人口の都市移動、急激な都市建設、満州国時代の建築、上海の租界時代と現状の比較、北京、天津、広州、深圳、香港、大連など各地の主要都市の発展状況が紹介され、短期間に建設された高速鉄道網、地下鉄路線、高速自動車道路網の現状、新幹線事故や道路、鉄橋の崩落事故、交通渋滞状況の説明がありました。

中国での建築品質問題に関しては、文化大革命により中国での高等教育が15年間停止し、インテリの下放で、社会から優秀な技術者や経験豊富なベテランが消えてしまった後遺症がいまだに尾を引いていること、さらに汚職体質や営利最優先主義による弊害の説明がありました。

中国の富裕層や庶民の生活風景紹介があり、政治関連では江沢民、胡錦濤政権の時代的役割から習近平体制が確立されるまでの解説、習近平の履歴や汚職撲滅、習近平のアキレス腱である民主化問題、民族問題、インターネット監視や言論統制の話があり、中国の格差問題、環境問題、水不足など今後の課題の説明があり、経済関連では一帯一路政策やアフリカ進出、外交問題では中印国境紛争、南沙諸島問題なども話がありました。

教育・文化関連では中国から米国への留学生は年間40万人(2012年)で日本人留学生の10倍であり、アメリカに於ける知中家が急速に増え知日家を圧倒していること、中国人の日本留学は増えているが日本人の中国留学は増えていないこと、世界各地に「孔子学院」が在るが、アメリカでは文化施設では無く国家の出先機関として警戒されていること、中国国内では24時間外国語TV放送が複数あり、英語放送では英語で討論できる中国人専門家が実に多い話などもありました。

日中の課題としては、尖閣問題などは棚上げし歴史認識は政治問題にすべきではなく事実の検証が大事であり、民間交流が増えれば相互理解が深まるとの結論でした。

当日はむのたけじさんのご子息である武野大策さん(医師・医学博士)も同席下さいました。

以上